

# 県内総合

## 産廃処分場

### 建設反対デモ行進

#### 日立市民団体、35人が訴え



産廃最終処分場の建設に反対してデモ行進する市民ら。日立市大久保町

県関与の新たな産業廃棄一町の採石場跡に整備する計画最終処分場を日立市諏訪一画を巡り、計画に反対する

市民ら35人が30日、同市千石町2丁目の多賀市民会館周辺などをデモ行進し、「ごみを埋めるな」などと訴えた。デモ行進は「県産業廃棄物最終処分場建設に反対する連絡会」が主催。県

が2020年に同市を候補地に選定して以降、今回で3回目となる。

一行は約40分間かけてJR多賀駅周辺や、新設道路のルートに近い同市大久保町などを回った。参加者は横断幕やのぼり旗のほか、「建設撤回」「洪水キケン」などと書かれたボードを掲

げて行進。マイクを通じ、搬入のために整備される新設道路に多額の費用が見込まれる点を指摘し、豪雨時の土砂災害の危険性などを訴えた。

処分場を巡り市は昨夏に受け入れを表明。県は今春に基本計画をまとめ、現在は市と事業主体の県環境保

全事業団の3者で地域振興策に関する協議が進められている。

同会の荒川照明共同代表は、予定地周辺の河川の浸水想定区域図が作成されていない点を問題視。「諦めない。多くの市民に知ってほしい」と語った。

(戸島大樹)